

令和6年度学校評価の結果をふまえた今後の改善方策

【今年度の学校評価の分析】

生徒については、5項目で昨年度よりポイントがアップしたが、「7. 本校の生徒指導は、適切ですか」の項目で0.2ポイントダウンとなった。

保護者については、情報発信の項目で3.5から4にポイントが大きくアップした。しかし、12項目で昨年度よりポイントがダウンした。

教職員については、10項目で昨年度よりポイントがアップし、6項目でポイントダウンとなった。特に、生徒指導に関する「共通理解と指導の統一」で0.6ポイントダウンした。

全体を通して、生徒指導関連の問題が多発した今年度、生徒と保護者が学校の生徒指導の在り方に不満を抱いている状況にあると言える。また、多くの問題行動を対応する教職員においても、生徒指導に関する方針の明確さや、全職員での共通理解の点で反省が出た評価となった。また、保護者の評価項目で多くがポイントダウンしたことは、特に学校が安全で安心な場所であってほしい期待だと考える。

【改善方策】

今年度の学校評価の結果を踏まえ、今後の改善方策として、次年度に以下の取組を実施する。

1 組織的な学校運営の推進

拡大学年団の配置について

令和7年度も拡大学年団配置に際して以下の工夫を継続する。

- (1) 新入生の学校不適應に対処するため、1学年に保健部長、養護教諭を配置する。
- (2) 3学年に進路指導部長及び教務部長を配置する。
- (3) 問題行動の対応のために、1年生に生徒指導部長、2年生に生徒指導副部長を配置する。
- (4) 拡大学年団のメンバーで、各クラスの担当を決定し、SHR や HR 等にも担当が不在な場合そのクラスを担当する。

※ 教員配置予定

	学年団	拡大学年団	合計
1学年	8	7	15
2学年	8	7	15
3学年	8	7	15

2 教員の資質向上について

本年度はベテラン教員が「学級経営の在り方」と題して、特に教室及びトイレの清掃の仕方のポイント等を細かく伝えた。それを受け、学年団はまず教員のみで清掃を実施し、その後、学年集会を通して生徒に美化の大切さを指導した。生徒のみならず教員も美化活動の大切さを認識できた。

本年度は昨年度の反省等を踏まえて、公開授業は実施しなかった。しかし、農業科学科と人権教育の指導訪問があったため、他の教員の授業を見る機会があったことはよかった。

そのことを受けて、令和7年度は以下の取組を行う。

- (1) 学級経営及び部活動経営のノウハウを身に付ける研修会及び意見交換会を実施し、若手教員の育成につなげる。
- (2) 公開授業や研究授業の実施。授業力の向上につなげる。
- (3) 兵庫県立総合教育センター等が主催する、キャリアステージに応じた教員の資質向上に向けた各種研修会、各学校で実施されている発表会への積極的参加とそれを基にした校内研修会の推進、また、外部講師

を招いての教員対象校内研修会の実施に取り組む。特に、BYODが始まってから生徒1人1台端末を持参することになり、タブレット端末をはじめとする教職員のICT活用能力のさらなる向上を目指す。

(4) 生徒一人一人が自他の命や生き方を考える教育活動の実施。HR等を活用したワークショップの実施。

3 地域の中学校の要望と生徒指導の視点を反映できる学校評議員の委嘱

令和3年3月で退職された地域の中学校長が、現在、佐用町教育委員会に所属していることから、令和4年度から学校評議員として委嘱し、中学校の要望をより吸い上げるとともに生徒指導の視点からの意見を反映できる学校評議員会の委員構成を引き続き継続する。

4 生徒一人一人が納得できる生徒指導及び肯定的な生徒指導の在り方の構築

様々な特性や課題を抱えた生徒に対応し、生徒指導に関する問題を軽減させるために、誰もができる生徒指導の在り方を見出す。そのために、些細な事柄も教員が常時、情報を共有できる校内体制を構築する。